



## 旧山崎家別邸の庭園を

公開します

観光課 ☎224-5940



公開日…土・日曜日、祝日  
(年末年始を除く)  
時間…午前10時～午後4時

市指定文化財である旧山崎家別邸(松江町二丁目)の庭園。今年2月に国の登録記念物(名勝地)になったことから、同別邸の庭園を一般公開します。  
枯山水と茶庭からなる庭園は、埼玉りそな銀行川越支店などの設計も手がけた保岡勝也によるものです。茶庭を含む和風庭園として造園文化の発展に寄与していることが高く評価されています。

## BOOK NAVI

### 灯火親しむ

### 読書の季節

中央図書館  
☎222-0559

この秋、皆さんはどんな本を読んでいますか？ 毎年、文化の日の前後2週間は「読書週間」です。この週間は「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、昭和24年に始まりました。それから半世紀以上が過ぎ、読書は考える力を養うためにますます必要とされています。  
読書といっても、何から読めばいいかわからないという方には、ブックガイドや書評集がおすすです。図書館の「読書・読書法」の書架には、このような本について書かれた本がたくさんあります。



例えば、『おかしな本棚』(クラフト・エヴィング商会/著 朝日新聞出版)は、「美しく年老いた本棚」(旅

する本棚)「声が聞こえる本棚」など、さまざまに名づけられた本棚が三十余り。本の背中が語るとっておきの話が写真とともに紹介されています。読書は年中しているという方にも、新しい出会いがあることでしよう。お気に入りの本が紹介されているのを見つけたら、楽しいです。  
秋の夜長を過ごすのに最適な読書。読みたい本を探しに、図書館に足を運んでみましょう。

## 里地・里山を大切にしよう

育てます！  
保全ボランティア

環境政策課 ☎224-5866

昔から里地・里山(雑木林)は、人々の生活を支える場でした。しかし近年は、人口減少・高齢化などによって、それらの地域に人の手が届かなくなり荒れてしまっています。このことは、いろいろな生物の生息・生育空間がなくなるという問題や、ごみの不法投棄などの問題を引き起こしています。



そこで市では、失われつつある里地・里山を維持、保全するボランティアを育成するために「里地里山保全ボ

ランティア育成講座」を開催しています。

昨年、同講座に参加した佐藤勲さん(72歳・旭町2丁目、右写真)は、「里山などの自然は少し手を入れるだけで、きれいになるんです。



そして、それにはボランティアなどの協力が必要だと思います」と話してくれました。

今年も、落ち葉掃きなどの体験を取り入れた同講座を開講します。自然の持つ癒しの力を感じながら、里地・里山の大切さを学んでみませんか。

●里地里山保全ボランティア育成講座

環境政策課 ☎224-5866 ☎225-9800

日時…12月8日～来年1月21日、木曜日ほか(全4回)、午前9時30分～ 会場…ジョイフルほか 定員…先着15人 申し込み…11月18日(金)、午前9時から電話・ファクスで同課

平成22年度に市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけぼの」から、作品を紹介します。

いつでも強い心をもって②

中学一年

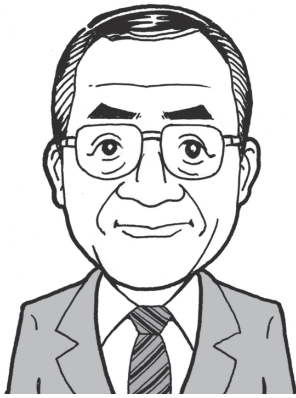
そして、隣の席になり何日かたった。私はいつの間にか、その子と会話するようになっていた。よく考えてみると、やはりその子はみんなと同じ「仲間」だ。その子の話はよく聞くと面白く、言っていることとても素直だ。そんな長所をたくさん

もっている友達を、なぜみんなは嫌うのだろう。そして、なぜあの時、私はみんなの方に引きずり込まれていったのだろう。私に毎日話しかけてくれる友達を見捨てて……。小学校を卒業する日、私はその子とたくさん話をした。その子は私と違う中学校へ進学すると聞き、最後にいい思い出をつくらうと思ったの



だ。私はその子と話していると、何かの人が、「なんであの子と仲良くするの?」と尋ねに来る。私は、いつも何も答えない。「なんで」と聞くほうがおかしいと思う。私はただ、仲間と話しているだけだ。みんなはなぜ、その子を仲間外れにするのだろうか。そして、その子は傷ついた心のまま中学生になる。——そう考えただけで、涙があふれた。

(つづく)



# 市長からの手紙

## ⑰教育について

先日、市内の青少年育成にかかわる団体の方とのタウンミーティングがありました。その中で、市内の荒れる中学校に関する発言がありました。生徒が学校の器物を壊す事件が発生している学校があります。その学校の教職員や教育委員会も生徒やその家庭に対する指導に努力し、今はだいぶ治まってきています。

荒れる学校の問題だけではなく、日本の義務教育課程、高校教育課程全般について解決しなければならない困難な課題は多いと認識しています。今後も教育関係者のみならず地域、保護者の全体が一体となって不断の努力を続けなければなりません。

ところで最近、「教員を査定して最低ランクの評価を2年連続して受け、更に一定の指導等の手続きをしても改善見込みがなければ分限処分まで免職できること」や、「高校の校長をすべて任期付きの職員とし、マネジメント力の高さを基準に選任すること」などの内容を定めた条例を作ろうとしている自治体があります。

最近の新聞にこの条例案の作成者のインタビュー記事が載っていました。その発言を見ても、この条例は「教育とは知育に尽きる」という極めて割り切った、単純な考えに基づく条例案のように、私には思えます。

確かに知育は重要です。しかし、学校が単にテストで良い点を取れる子どもをつくる場であるべきではないことは誰でも分かっていることです。知育偏重体制の学校を、しかも、少々強引な手法で作ろうとしている状況に、大きな危惧の念を抱きながら注目しています。

本市の学校では、将来の川越を担う子どもたち一人ひとりが、知育だけに偏らずバランスよく豊かな人間性を育んでいけるような教育に取り組んでいます。

川越市長 川合善明